

専修大学

図書館だより

第48号 2002.4

目次

情報時代に生きる叡智を! (毛利健三)	2
図書館という「スペース」・図書館という「プレイス」(神原 理)	3
図書館の住人(高田夏子)	3
ルカ=パチョーリ著『算術、幾何、比及び比例総覧』初版について(佐々木重人)	4
としょかんインフォメーション	6
平成14年度開館日程表	8

図書館を使いこなそう



図書館ツアーで図書館体験



ラクラク情報検索



資料も充実AVブラザ

情報時代に生きる叡智を！

図書館長 毛利 健三



新入生諸君に心からお祝いと歓迎の言葉を贈ります。

諸君は好むと好まざるとにかかわらず、情報社会とも知識社会ともよばれている現代社会を生きていかねばなりません。ならば、諸君、積極的にこの社会を生き抜く作法を身につけようではありませんか。今始まった大学生活の4年間で、このためにどんなに掛け替えのない貴重な時間であるか、このことを自覚することがまずもって大切です。

情報社会とは、時々刻々、膨大な情報が生まれ、死んでいくだけでなく、情報の複雑化が進んでいる社会です（たとえば遺伝子情報地図を想起してみてください）。知識とは、これらの情報を取捨選択したり、組み合わせたりして、二次的に獲得される情報の集合のことだと、ひとまず考えておきましょう。知識社会とは、知識の創造（生産）や伝達（流通）や生活（消費）が、実物資源の獲得や加工と並んで、あるいはそれ以上に重要となっている社会を意味するでしょう。（「知識資本主義」という新しい概念は、この時代転換がもつ経済面での影響の大きさを示唆しています。）

さて、諸君も想像されているように、こういう社会を生き抜くことは決して易しいことではありません。氾濫する情報のなかから必要な情報を検索するだけでも大変なことです。しかし、もっと大変なことに検索に先立って、私達は、何が必要な情報であるのか、について知っていなければなりません。そのためには課題に応じて大小の知識が欠かせません。

堂々巡りに陥ったようにみえますが、実際、学問に王道はありません。学部の講義で習得する専門知識はこの困難さをやわらげるだけでな

く、上達する効率を高めるのに大いに役立つでしょう。知識が増えるにつれて新しい情報が頭に入りやすくなり、情報の意味と価値についての読解力も強まるでしょう。要するに、日々の訓練と自己規律だけが諸君の前に道を切り拓いていくでしょう。大事なことは最初の一步を踏み出すことです。

必ず前の一步が後の一步を易しくしてくれるでしょう。

欲張ってもう一つ諸君に所望したいことがあります。それは、現代社会においては、伝統社会にもまして人間の叡智が果たすべき役割が大きくなっているのではないかと、という考えと関係しています。ここでいう叡智とは、単なる知識ではなく、情報や知識を適切な文脈—それも科学技術的な文脈だけでなく倫理的な文脈—のなかに位置づけ、現在だけでなく未来の世界にとっての意味を判断し、そうした判断に立って決断し、行動する一種の基準のようなものだと考えてください。したがって、叡智は「私達は何のために学ぶのか」という存在論的問いかけを不断にともなっているのです。どうか諸君も、「私は何のために大学にきたのか」、繰り返し自問自答してみてください。

最後に、図書館は短命な情報ではなく、時代を超えて生き長らえてきた情報と知識が蟠集しているところです。図書館は、この時代に生きる作法と叡智を学ぶもっとも自主的な道場として、大学のなかの大学といって言い過ぎではありません。

図書館は諸君の来館を待っています。

（もうり けんそう：経済学部教授）

ESSAY

図書館という
「スペース」
図書館という
「プレイス」



図書館委員会委員
神原 理

「現代人には居場所がない。」と言われている。職場やアルバイト先、家庭や遊び場など、様々な「スペース（空間）」が現代社会には用意されているが、本当に心を落ち着かせて「素の自分に戻れる居場所（プレイス）」は少ない。いつも「誰か」を演じ続けていないといけなような現代社会で、我々は「居場所探し」をしているところがある。

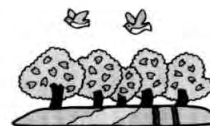
いま、「自分が自分でいられる場所」、「自分が自分であることを確認し、自分を取り戻せるような場所」は、どれくらいあるだろうか。

大学には、図書館という立派な「スペース」がある。そこでは、本や資料を「読み」、「借りる」という目的がなければ入ってはいけなような雰囲気がある。でも、そんなことは誰が決めたわけでもない。生田分館の窓から丹沢の山々を眺めていると気持ちが安らぐ……。背の高い書庫と書庫の間で本をながめていると賢くなったような気分になる……。多分、それだけでいいのだろう。それがやがて自分の「プレイス（居場所）」になっていくのだろう。

ただ、「居場所」は人から与えられるものではないと思う。自分で時間と労力をかけてつくり上げていくからこそ、「自分だけの居場所」になる。

そうするからこそ、他の誰でもない「自分」が獲得できるのではないだろうか。

（かんばら さとし：商学部助教授）



図書館の住人



図書館委員会委員
高田 夏子

「図書館だったら住んでもいい」と、昔ある知り合いが言っていました。ここにも本好きがいるなど、うーん気持ちはよくわかる、思ったものでした。私も図書館のとくに書庫の本棚と本棚の間の狭い空間が大好きです。あの本のかびくさいようにも感じるにおいが気持ちいいのです。似たような感覚の人もいるのか、母校の図書館でも、書庫の片隅にある小さな二人がけの机は人気がありました。早めに来てその席をキープしているので、なかなか座れないあこがれの席でした。

小学校の学級文庫や、小さな図書館もお気に入りの場所でした。私にとって本は、母のお迎えを待つ間の空想の友でもありましたが、次は何を読もうかなと、本棚の間で本を見上げて考えているときに、わくわくと楽しかったことを覚えています。

部屋の模様替えをするときには、本に囲まれた読む空間を作ろうとやってみるのですが、図書館のあの雰囲気やにおいはなかなか再現できません。どうもあのにおいは本がたくさんあって、しかも中には古い本があることが必要なのかもしれません。

しかしこのごろの自分と図書館のつきあいを考えてみると、必要に応じて見たいものを探しに行く、時間がなくてそれが終わるとすぐ帰る、そんな風になってしまいます。昔の「何読もうかな、わくわく」をしてないなど、残念です。時々楽しみに行く場所としてみたいものです。専修大の図書館は、本棚と本棚の間が少ないのが実は少し残念なのですが、そのうちオペラ座の怪人ならぬ、図書館の怪人が出没するかもしれません。

（たかた なつこ：文学部助教授）

ルカ=パチョーリ著

『算術、幾何、比及び比例総覧』初版について

佐々木 重人



このたび専修大学図書館は、複式簿記を紹介した最古の書物として知られるルカ=パチョーリ著『算術、幾何、比及び比例総覧』初版(1494年)を購入した。本書は後に出版される複式簿記書の基点となった。また本書は西洋書誌学上でも近代印刷確立前の揺籃期本として注目されている。

「会計の父」

ルカ=パチョーリ(Luca Pacioli)は、中世イタリアの都市の商人が利用し発展させた企業帳簿の記録法である「複式簿記」を最初に「書物」のなかで紹介した人物として会計史上、評価されている。しかもその「書物」で明らかにされた「複式簿記」の基本的構造は、現代の企業も日々利用している記帳技術にそのまま受け継がれているのである。その「書物」こそ、専修大学図書館が購入した『算術、幾何、比及び比例総覧(Summa de Arithmetica, Geometria, Proportioni et Proportionalita)』初版1494年(以下「スムマ」と略称)である。商人ごとの秘伝的扱いともなっていた「ヴェネチア式簿記法」が「スムマ」を通じて一般に公開されたわけであるから、それが「複式簿記」の普及に果たした功績は計り知れない。その普及過程は、イタリア国内ばかりでなく、他のヨーロッパ諸国、アメリカ、そして明治期の日本にも繋がる。この意味でルカ=パチョーリは「会計の父」とも称される。

ルカ=パチョーリの青年時代

ルカ=パチョーリは、1445年に北イタリアのアレッツォ州の小村ボルゴ・サン・セポルクで生まれた。15歳のときに地元の実業家フォルコ=デ=ベフォルチ家に住み込み奉公に入り、このころから商業記録法を学び始めていたという。その後、同郷の画家であり、イタリア・ルネサンスを代表する芸術家でもあるピエロ=デッラ=フランチェスカのもとで数学を学び始めた。ピエロに数学の才能を認められたルカ=パチョーリは、数学研究の様々な

機会を与えられた。一つは、地元領主であったウルビーノ公フェデリコ=ダ=モンテフェルトロへの紹介によってその館に付属していた図書館の利用を認められた。ルカはその子息ガイドバルドとの交流も深めた。ウルビーノ公は、芸術を庇護する援助者(パトロン)としても有名であり、ルカはその恩恵を大いに受けることになる。

またピエロが続いて紹介した建築家レオン=バッテスタ=アルベルチの指示により19歳の時にヴェネチアの大商人アントニオ=デ=ロンピアジ家の三人の子息の数学家庭教師に任ぜられた。このことが、本格的にヴェネチア商人が行っていた商業実務(簿記を含む)に触れる機会をルカに与えることになった。同時にヴェネチア滞在中に数学の教師ドメニコ=プラガディノの門下として本格的に数学を学び、数学者として身を立てる決意をする。

「スムマ」出版へ

1475年にルカはフランチェスカ派僧団に入るが、これ以降、団則によりイタリア各地の宮廷や大学で数学の講義をすることになった。「スムマ」のa丁のa1の表側(現代的には17頁)や番号付紙葉198番裏のページに見られる絵文字に描かれたルカ=パチョーリが修道僧の装束を纏っているのはこのためである。

そして当時の学術論文で使用されたラテン語ではなく口語であるイタリア語によって記された「スムマ」初版第1刷は、ルカが49歳を迎えた1494年の11月10日から20日にかけてヴェネチアの印刷業者バガニーニの手によって印刷され出版された。

「スムマ」は、基本的に「(13世紀の数学者である)ピサのレオナルド以降に現れた多く

の算法(実践的計算法)書の総決算とみなすことが可能とされる(三浦伸夫「パチョーリと数学」Accounting, Arithmetic & Art Journal No.14 日本パチョーリ協会 1999.09 p.2)一方で、その第1部「算術・代数」第9編 論説第11「計算及び記録に関する詳説」という表題のもとで現代複式簿記の原型である「ヴェネチア式簿記」が紹介されたのである。

「スムマ」の「簿記」紹介部分(番号付紙葉198番裏から210番裏まで)の第1章において、ルカ=パチョーリが「スムマ」に「簿記」の紹介部分を書いた理由が次のように述べられている。

「仁篤なウルビーノ公殿下の庶民諸賢のために、或いはその必要とすることあるべき商人に関するすべての規則を会得することができるように、わたくしは本書においてすでに説明した事項に加えて、極めて必要ないま一つの特別な論説をここに執筆することにした。」——(片岡義雄「増訂パチョーリ『簿記論』の研究[第二版]」森山書店45頁)

このことは、ルカが簿記を実用数学の一部と理解していたことを示すと同時に「スムマ」出版の際にウルビーノ公ガイドバルドにその物心両面の助力を受けていたことを物語っている。「スムマ」が「ヴェネチア式簿記」を紹介した根拠は次のように述べられている。

「わたくし達は、ヴェニスで採用されている方法を記述することにする。この方法はあらゆる方法のうち、確かに推奨すべきものである。」——(片岡義雄「前掲書」47頁)
つまり、「スムマ」出版に至る約20年間、イタリア各地の宮廷や大学で滞在した際にルカ



は、その土地土地の帳簿記録法を相互に比較してその優劣を判断していたことになる。

「スムマ」の書誌学的価値

「スムマ」は、イタリア・ルネサンスそのものを映し出す一つの鏡という役割を持ち始めている。西洋書誌学の側面から見ると、「スムマ」はインクナブラ(Incunabula)に属すると表現される。それは、「揺り籠の中にある状態」(東田全義『Accounting, Arithmetic & Art Journal』No.8 日本パチョーリ協会1995.11 p.2)を意味し、ゲーテンベルグが聖書を活字印刷した1455年頃以降から15世紀中に印刷された書物をさす。近代印刷の確立前の揺籃期本として西洋ではその所有が図書館の格式を決めるパロメータともなっている。

図書館が本書の購入に関心を持ち始めて30年以上が経過していると聞く。今後「スムマ」は、会計や商業関連文献ばかりか、イタリア・ルネサンス領域に文献資料収集の一つの核として機能するに違いない。それは「顔をもった図書館」構築への一齣といえるだろう。

(ささき しげと: 商学部教授)

予告 特別展示 おくりもの イタリア・ルネサンスの商人に宛てた賜物

—ルカ=パチョーリ著「スムマ」 初版:1494年—

企業帳簿の記録法である「複式簿記」を紹介した最古の書物をその出版に係わる時代背景と共に展示します。



期間:平成14年6月上旬~7月上旬
時間:10:00~17:00(土曜日は14:00)
場所:専修大学図書館研修室(120年記念館3階)

としょかん

インフォメーション

■—— 本館と生田分館の入館方法が変わりました

本館と生田分館の入館方法は、今まで学生証と図書館利用カードの裏面にあるバーコードを図書館のバーコードリーダーで読み込ませてゲートから入館していました。

平成14年4月1日から従来の入館方法を改め、学生証、教職員の身分証明書また図書館利用カードの磁気テープで入館できるようになりました。

入館ゲートで磁気テープを読み込ませて入館してください。

■—— 開館時間を延長しました

本館と生田分館の開館時間が延長されました。平成13年7月に本館の開館時間が平日1時間延長されましたが、平成14年4月1日より更に1時間延長され、本館・生田分館とも開館時間は下記のようになります。

月～金 9:00～21:00
土 9:00～19:00

また、夏期休暇期間と春期休暇期間の開館時間変更は、その都度お知らせします。

■—— 図書の貸出冊数と貸出期間が変更しました

図書の貸出冊数と貸出期間が平成14年4月1日より下記のようにになりました。

	貸出冊数	貸出期間
学部学生	10冊	20日
大学院生	50冊	90日
教職員	100冊	120日
本学校友	5冊	20日
育友会会員	5冊	20日

* 参考図書、雑誌、AV資料などは貸出できません。

■—— 「NACSIS-IR」検索を無料で提供します。

本館と神田分館の情報検索コーナーで提供し

ているデータベース「NACSIS-IR」を利用した情報検索は、平成14年4月1日より無料になります。

なお、「NACSIS-IR」の有料データベースの利用を希望する場合は、係員におたずねください。

※「NACSIS-IR」…国内外の学術研究用のデータベース

■—— 本館からのお知らせ

● 教員著作コーナー紹介

本館3階の情報検索コーナーに本学教員の著作を集めた「教員著作コーナー」があります。収集の対象は本学専任教員の著書、編集書、訳書、監修した図書などです。

この「教員著作コーナー」は平成12年に本館で新設され、現在も多くの学生たちに利用されています。

● 図書館ツアー（新入生対象）

図書館内をまわりながら図書館員が施設の案内、利用方法の説明をします。

4月8日(月)、9日(火)、10日(水)
16:20～17:00

集合場所：開始時間までに図書館入口（120年記念館3階）付近に集合してください。

* 事前に申し込みの必要はありません。

● OPACの使用方法について

4月1日(月)～26日(金) (*土曜日は除く) 9時～17時、本館3階・情報検索コーナーに図書館員が常駐していますので、OPAC(オンライン閲覧用目録)端末の使用方法など分からない事は何でも相談してください。

■—— 生田分館からのお知らせ

● 育友文庫ジョイについて（1階第1閲覧室）

「育友文庫ジョイ」は、在学生の父母で組織されている「育友会」からの寄付金により購入した一般教養・趣味・娯楽・実用書・文学等あら

ゆるジャンルの図書コーナーです。

いずれも皆さんにとって大変興味深い図書ばかりですので、ぜひ利用してください。

「育友文庫ジョイ」に限らず、購入を希望する図書があれば、1階ロビーの「図書購入基本カード」に記入し、カウンターへ提出してください。なお、神田分館1階開架閲覧室にも設置されています。

● 飲食は2階第2B閲覧室と2階外部テラスで

2階第2B閲覧室および2階外部テラスでのみ、飲食することが可能です。ただし、軽食・ジュース等に限ります。2階第2B閲覧室と2階外部テラス以外の閲覧室では、飲食は一切禁止されています。ゴミは必ずゴミ箱に分別して捨ててください。

■—— 神田分館からのお知らせ

● 神田分館にも教員推薦図書コーナー開設

今年度より、神田分館に教員推薦図書コーナーが開設されます(開設日は追ってお知らせします)。

教員の推薦図書として「講義要綱」「学習ガイドブック」を中心に掲載されている参考文献などを集めたコーナーです。利用は館内閲覧と館内コピーに限りますが、館外への貸出を希望する場合は、おおかたは同じ図書が本館および神田分館の一般書架に配架されていますので、そちらをご利用ください。

なお、生田分館には、平成13年4月より1階第1閲覧室に既に設置されていますので、勉学の友として大いに活用してください。

● 図書館ツアー

<神田分館>

* 図書館ツアー

神田分館：4月10日(水)～11日(木)
16:20～17:00

* 情報検索やOPACの使用方法については、図

書館員にご相談ください。

<申込方法> 事前に図書館カウンターにて申し込みをしてください。

図書館カレンダー

月	4月	5月	6月			
1	月	水	休館	土		
2	火	木	休館	日	休館	
3	水	金	休館	月		
4	木	土	休館	火		
5	金	休館	日	休館	水	
6	土	月	休館	木		
7	日	休館	火		金	
8	月	水		土		
9	火	木		日	休館	
10	水	金		月		
11	木	土		火		
12	金	日	休館	水		
13	土	月		木		
14	日	休館	火		金	
15	月	春期特別貸出返却期限日	水		土	
16	火		木	日	休館	
17	水		金		月	
18	木		土		火	
19	金		日	休館	水	
20	土		月		木	
21	日	休館	火		金	
22	月		水		土	
23	火		木		日	休館
24	水		金		月	
25	木		土		火	
26	金		日	休館	水	
27	土		月		木	
28	日	休館	火		金	
29	月	休館	水		土	
30	火	休館	木		日	休館
31			金			

本館：9:00～21:00 (土曜日 9:00～19:00)
生田分館：9:00～21:00 (土曜日 9:00～19:00)
神田分館：9:00～22:00 (土曜日 9:00～22:00)

特別研修週間について

4月29日(月)から5月6日(月)までの特別研修週間は、本館、生田分館、神田分館とも休館します。

平成14年度 開館日程表

日 程		本 館	生田分館	神田分館
前期授業期間 (オリエンテーション期間を含む)	4月1日 - 7月22日	月～金 9:00-21:00 土: 9:00-19:00	月～金 9:00-21:00 土: 9:00-19:00	月～土 9:00-22:00
入学式 ※	4月5日	休館	休館	休館
特別研修週間	4月29日 - 5月6日	休館	休館	休館
前期試験期間	7月23日-7月29日	月～金 9:00-21:00 土: 9:00-19:00	月～金 9:00-21:00 土: 9:00-19:00	月～土 9:00-22:00
夏期休暇期間	7月30日 - 9月16日	月～金 10:00-19:00 土: 休館	月～金 10:00-19:00 土: 休館	月～金 10:00-19:30 土: 休館
夏期一斉休暇期間 ※	8月12日-8月19日	休館	休館	休館
後期授業期間	9月17日-12月25日 1月6日-1月8日	月～金 9:00-21:00 土: 9:00-19:00	月～金 9:00-21:00 土: 9:00-19:00	月～土 9:00-22:00
秋分の日	9月23日	9:00-21:00	9:00-21:00	9:00-22:00
体育の日	10月14日	9:00-21:00	9:00-21:00	9:00-22:00
大学記念日 ※	10月30日	休館	休館	休館
冬期休暇期間 ※	12月26日 - 1月5日	休館	休館	休館
後期試験・学年末試験	1月9日-1月24日	月～金 9:00-21:00 土: 9:00-19:00	月～金 9:00-21:00 土: 9:00-19:00	月～土 9:00-22:00
春期休暇期間	1月25日-3月31日	月～金 9:00-17:00 土: 9:00-12:00	月～金 9:00-17:00 土: 9:00-12:00	月～金 9:00-19:30 土: 9:00-14:30
卒業式 ※	3月22日	休館	休館	休館
日曜・祝日 ※		休館	休館	休館

注1) 上記開館時間および休館日は、都合により変更することがあります。
 注2) ※印は図書館利用規程による休館日です。
 注3) 「秋分の日」「体育の日」は祝日ですが学部授業実施のため開館します。

春期特別貸出の返却期限日について

春期休暇にともない、下記の要領で実施した特別貸出の返却期限日は次のとおりです。遅れないでください。

取扱期間

1月21日(月)～3月27日(水)

返却期限日

4月15日(月)

専修大学図書館だより 第48号

発行日: 2002年4月1日

編集・発行: 専修大学図書館 館長 毛利 健三

専修大学図書館 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

〒214-8580 Tel. 044-911-1274(直)

専修大学図書館生田分館 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

〒214-8580 Tel. 044-911-7138(直)

専修大学図書館神田分館 東京都千代田区神田神保町3-8

〒101-8425 Tel. 03-3265-8339(直)

URL: <http://www.senshu-u.ac.jp/> (専修大学トップページ)